

日本について

『原爆の子〜広島少年少女のうたえ』は、原爆投下から6年後の1951年、長田新により岩波書店から刊行された原爆体験文集です。

1945年8月6日広島市の原爆に被爆した教育学者・長田新は、被爆した少年少女の手記を集めて平和教育の研究資料とする計画を立てました。彼は学生とともに作文用紙を持参して広島市内外の小・中・高・大学、さらに孤児収容施設などを巡回し、手記の執筆を依頼しました。この結果、1,175名の手記が集められ学生により清書されました。2009年までの時点で14の言語で翻訳、世界中に出版されています。

私の平和への思い

私は、この文章を詠んだだけで、
原爆への恐怖が伝わった。

た、た一つの原爆でたくさんの人々や
大切な家族がなくなると思うと、とても
悲しくなる。

戦争は絶対にや、てはいけない
ものだ、と私はずっと思ってる。

いろいろな病気をもらって、
生きるのは辛いと思ってる。
どんな病気をもらっても必ず
生かされるからとて思ってた。